

第 20 回日本病理学会カンファレンス開催報告

山形大学医学部病理学講座 二口 充

2024 年 7 月 26 日(金)~27 日(土)、山形テルサアプローズにおいて、第 20 回日本病理学会カンファレンスを開催いたしました。昨年の本カンファレンスは函館において合宿形式が復活し、久々に熱い議論が交わされました。そこで、山形においても、発表者や参加者の熱量が山形の風景や食べ物と結びついた結果、参加された皆様の記憶に残るものとなればと山形での病理学会カンファレンスでは、完全対面形式で開催しました。

当日、山形県・秋田県を中心とした東北地方への大雨災害による交通障害で、当日になり会場に来られなかった方も数名おられました。おかげさまで、87 名のご参加をいただ



き、賑々しく開催することができました。心より御礼を申し上げます。

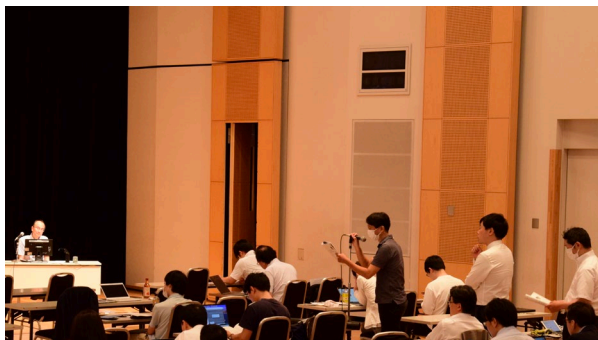
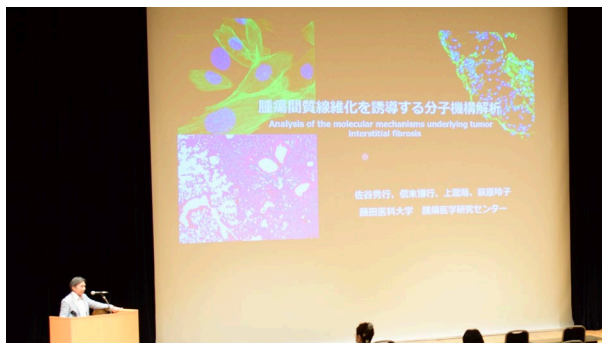
1. 開催の目的と Scientific Program の概要

本カンファレンスでは、「相乗効果を創出する病理学—腫瘍間質相互作用に学ぶ—」をテーマとして、国内でご活躍の第一線研究者をお招きしご講演をいただきました。

単一な視点に比べ異なる視点から多角的で俯瞰的な視点を持つことで得られる情報は、相乗的な効果が得られると信じています。腫瘍細胞は間質細胞と相互作用することで、相乗的な作用により力強く増殖することが知られています。我々は、この腫瘍間質相互作用による相乗効果に学び、我々と新しい概念・新技術の専門家との相互作用に加え、若手とシ

ニア、基礎と臨床の相互作用により相乗効果が得られ、力強く研究を推進できると確信しています。本カンファレンスでは、病理医や病理研究者が虚心坦懐にお互いの意見を聞き、それぞれの専門的な知識を統合・補完させることが、診断、研究および教育のレベルを向上できると信じています。

そこで、本カンファレンスでは、特別講演として、藤田医科大学腫瘍医学研究センターの佐谷秀行先生に、「腫瘍間質線維化を誘導する分子機構解析」と題してご講演いただき、10名の公演発表を行いました。またポスター発表では、33演題をキーワードをもとに5つにわけ、熱い議論が交わされました。



本カンファレンスの講師、演題名、座長は以下の通りです。（敬称略）

特別講演 座長：二口 充（山形大学医学部病理学講座）

腫瘍間質線維化を誘導する分子機構解析

佐谷 秀行（藤田医科大学 腫瘍医学研究センター）

口演 1 座長：下田 将之（東京慈恵会医科大学病理学講座）

食道扁平上皮癌における上皮間葉転換とリンパ節転移リスクの検討.

加藤 秀（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科人体病理学分野）

口演 2 座長：古川 徹（東北大学大学院医学系研究科病態病理学分野）

組織透明化法を用いた病理組織解析への応用

吉澤 忠司（弘前大学大学院医学研究科 病理生命科学講座）

口演 3 座長：大江 倫太郎（山形大学医学部病理診断学講座）

臨床検体を用いた 1 細胞 RNA-seq 解析と遺伝子発現不均一性の定量化

中山 淳（大阪国際がんセンター研究所 腫瘍増殖制御学部）

口演 4 座長：小田 義直（九州大学大学院医学研究院形態機能病理学）

基礎研究と臨床研究の連係に病理ができること

小嶋 基寛（国立がん研究センター東病院・病理臨床検査科）

口演 5 座長：谷口 浩二（北海道大学大学院医学研究院 総合病理学教室）

腫瘍浸潤リンパ球の解析から見えてきたもの

富樫 庸介（岡山大学学術研究院医歯薬学域（医学系）腫瘍微小環境学分野）

口演 6 座長：増本 純也（愛媛大学医学系研究科解析病理学）

腫瘍間質相互作用におけるマクロファージの役割

菰原 義弘（熊本大学医学部細胞病理学）

口演7 座長：清川 悦子（金沢医大・医・病理学I）

ペリサイトが主導するがん微小環境形成機構

田中 美和（公益財団法人がん研究会 がん研究所がんエピゲノムプロジェクト）

口演8 座長：榎本 篤（名古屋大学大学院医学系研究科腫瘍病理学）

生体組織・細胞の自家蛍光を利用した病理学研究

松井 崇浩（大阪大学医学部附属病院 病理診断科）

口演9 座長：樺澤 崇允（山形大学医学部病理学講座）

がんの病理組織を用いた腫瘍内不均一性への挑戦

滝 哲郎（国立がん研究センター 東病院 病理・臨床検査科）

口演10 座長：鈴木 周五（大阪公立大学大学院医学研究科分子病理学）

肝発癌における遺伝子相互作用の役割

山本 雅大（熊本大学 医学部保険学部 腫瘍病理解析学講座）

若手ポスター賞の受賞者と受賞演題名は以下の通りです。おめでとうございます。

【最優秀若手ポスター賞】

塚本 修一（神戸大・院医・病理学）

ポドプラニン陽性癌関連線維芽細胞は大腸発癌早期に出現する

【優秀若手ポスター賞】

瓜生 開（福島県立医科大学基礎病理学講座）

卵巣癌細胞表面分子の網羅的解析で同定した新規診断治療標的 KLHL14 の機能解

石川 励（浜松医科大学腫瘍病理学講座）

原発性空腸・回腸腺癌の免疫組織化学的・遺伝子学的特徴の解明

井上 千裕（東北大学大学院医学系研究科病理診断学分野）

間質性肺炎合併肺腺癌における癌細胞-癌関連線維芽細胞相互作用に関する検討



2. 親子休憩室の設置について

第 20 回日本病理学会カンファレンスでは、学会参加者のご同伴者として、お子様と一緒に学会会場内にお入りいただくことを可能としました。発表会場と同じフロアの和室に机を用意し、会場での発表は ZOOM（予定）で中継いたしますので、ご自分の PC を持ち込んでいただければ聴講が可能としました。傍で子供さんと一緒にいることができます。パ



ーティーションを区切って授乳することも可能としました。なお今回宿泊は個室を用意しており、お子様と一緒に宿泊していただきました。合計 3 組、4 名のお子様の申し込みがあり、子供同士でトラブルにならないかと不安でしたが、全くの杞憂でした。

3. 総括

昨今、病理医を取り巻く研究環境は、厳しさを増す一方です。病理診断は日々増え、働き方改革による労働時間の制限など、病理医としての仕事が過酷となる中で、研究時間の確保など数多くの問題を抱えております。そんな中、本カンファレンスでは、顔を合わせて研究内容を議論することで、モチベーションの維持の一端を担えればと思いました。講演内容に関しましては、多くの先生にご満足いただけたことを大変喜んでおります。先端技術は日進月歩です。今後も、分野横断的な新技術をテーマとしたカンファレンスを継続する必要性を感じ取りました。コロナ禍を経験した若い学生、研究者にとって、二人部屋での宿泊はあり得ない選択肢となっており、今回は個室での宿泊できるよう配慮しました。今後は、ニューノーマルに対応した開始形式や懇親会のあり方を考える必要があると感じました。

4. 謝辞

第20回日本病理学会カンファレンス開催に際しまして、多大なるご支援を賜りました日本病理学会に深く御礼を申し上げます。また、はるばる山形までお越しいただき、ご講演を賜りました講師の先生、座長・選考委員の労をとり、討論にご参加くださいました日本病理学会研究推進委員会委員の皆様にも、深謝申し上げます。最後に、本カンファレンスの準備、運営にあたっていただいた山形大学医学部病理学講座のスタッフにも、心より感謝を申し上げます。